



世界文化遺産「中国大運河」



無錫運河 (江蘇省南部、無錫市)

無錫は「太湖の真珠」と称される、3千余年の歴史を持つ江南の古い都市。南部に太湖があり、広い太湖には川や溪流が密に分布。典型的な江南水郷の風光を呈している。無錫の風景は「絵のように美しい」とよく言われる。



天津楊柳青運河 (天津市西部)

楊柳青鎮(町)は天津市の西部に位置し、北には子牙河と大清河が、南には大運河が流れている。明・清時代に運河が開通し、水運が盛んになった。秋になると南からの食糧運輸船が集まってにぎわい、北方の「小蘇杭」(ミニ蘇州・杭州)と呼ばれた。



微山運河 (山東省西南部、済寧市)

済寧は古くから交通の要地として栄えた。隋の時代以降、大運河が市内中心を通り、明・清の時代には山東省で最も経済が栄えた都市となった。繁栄ぶりは蘇州と比べられ、「江北小蘇州」とも呼ばれた。



常州運河 (江蘇省南部、常州市)

常州は別称で「竜城」とも呼ばれる歴史の古い文化都市。江蘇省南部、長江デルタの中心に位置し、北には長江が流れ、東は太湖に臨む。京杭(中国)大運河が市内を通っている。山水の美しさから「グリーンの仙境」とも言われる。



蘇州運河 (江蘇省南部、蘇州市)

蘇州は古代の「呉」の国。全体的に地勢が低いため、湖沼が多く、川が縦横に流れており、江南水郷として多くの人によく知られている。蘇州古城の中には水路が35%、橋が168本もあり、「東洋のベニス」と称されている。



南潯運河 (江蘇省北部、湖州市)

南潯は浙江省湖州市の東に位置し、上海、蘇州、杭州など主要都市まで100%と交通の便に優れる。中国歴史文化名鎮の一つで、中西合璧の古典建築やかつての文化人の庭園などが多く残り、古き江南水郷独特の趣が漂う街。



台児庄運河 (山西省南部、棗門市)

台児庄は山東省棗門市に位置する市轄区。水陸の幹線が交わる位置関係から、清代には船舶の往来が多く「天下第一庄」と呼ばれる商業の町であった。古城の中にまで流れ込んでくる運河は、「東方古水城」独特の趣を醸し出している。



寧波運河 (江蘇省北東部、寧波市)

寧波は古い歴史を誇る沿海部の港湾都市。唐代から日本、新羅、東アジアの船が往来し、宋・元の時代にも日本の仏僧が遊学した。沖合いには舟山列島が浮かび、西方は紹興市や台州市と接している。

1600年前に建設された世界最古の大運河「中国大運河」の世界文化遺産登録が6月22日、ユネスコ(国連教育科学文化機関)がカタール・ドーハで開いた世界遺産委員会で決まった。同時に中国、カザフスタン、キルギスの3カ国が共同申請していた「シルクロード」も世界文化遺産が決定。これで中国国内の世界遺産は47件となった。

世界遺産委員会は、大運河について「世界で最も古く、長い人工の水運産業革命以前には最大規模で、最も広範囲に及ぶ土木工事。中国南北の物資の交流と領土の統一管理を促進した」と評価した。

中国大運河は、北京、杭州を結ぶ総延長2500kmに及ぶ運河で、京杭大運河(けいこうだいうんが)とも呼ばれる。紀元前から部分的に開削されていたものを隋の煬帝が整備、610年に完成した。大運河は途中で黄河と揚子江を横断。歴代王朝から現代に至るまで主に物流の大動脈として活用されている。



中国大運河

遺産種別：世界文化遺産
遺産所在地：北京、天津、河北省、河南省、山東省、安徽省、江蘇省、浙江省

中国大運河は京杭大運河を含む世界で一番古く、長い人工運河の総称。万里の長城と並び、中華民族の文化を象徴している。今回世界文化遺産として登録された大運河の全長は約1011km。大運河は北京、天津、河北、河南、山東、安徽、江蘇、浙江の6省2市を通過して、海河、黄河、淮河、揚子江、钱塘江五大水系とつながる。遺跡構成箇所は58カ所にのぼる。

大運河の最南端 水の都・杭州

中国8大古都のひとつに数えられる浙江省の省都杭州は、マルコ・ポーロに「世界で最も美しい都」と称されたことでも知られる。

上海の南西約150kmの場所に位置し、高速鉄道を利用すれば上海からは最速約45分で到着する。周辺には杭州一の見どころともいえる世界遺産「西湖」のほか、毎年中秋のころに大逆流が起こることで知られる「钱塘江」、魯迅の故郷で中国を代表する酒の名前になった町「紹興」など、見所が多い。もちろん杭州市内にも靈隠寺や六和塔などに代表される歴史的建造物や各種博物館、テーマパークなど数多くの観光スポットがある。

今回、杭州では六つの遺産地点、五つの河道、合計11カ所が遺産構成箇所として登録された。富意倉、鳳山水城門遺跡、橋西歴史街区、西興過塘行埠頭、拱宸橋、広濟橋の6カ所の遺産地点、杭州塘段、江南運河杭州段、上塘河段、杭州中河一龍山河、浙東運河主線の五つの河道が登録されている。

水路に囲まれた町「烏鎮」「西塘鎮」

浙江省、江蘇省、上海市周辺は江南水郷と呼ばれ、至る所に水路に囲まれた町がある。浙江省の代表的な古鎮には「烏鎮」「西塘鎮」がある。



世界遺産の西湖



山水浙江



钱塘江の大逆流



西塘鎮



紹興酒水郷



烏鎮



上海CITM(11月14~16日)

今年のCITM(中国国際旅行博覧会)は11月14日(金)から16日(日)まで、上海新国際博覧センターで開催される。CITMは毎年国内外から2千人以上のセラー、千人以上のバイヤーが参加する大型旅行博覧会であり、会期中は世界各地から参加者が集結する。14日に開幕を迎え、3日間わたってビジネス商談や交易会、特色あるアース出演による観光情報の紹介、発信が行われる。上海市のMICE(ミーティング、インセンティブ、コンベンション、エキシビション・イベント)施設は非常に豊富。10以上の展示施設、二つの大型コンベンションセンター、100を超える高級ホテルが大型コンベンションを通じて、国際レベルの展示会などが開催されており、本年秋以降も中国国際医療設備設計と技術展、上海紡織服飾展示会、2014アジア電子展・中国国際半導体博覧会などが目白押しだ。

また市内、周辺都市にはさまざまな客層の好みに合った観光スポットが数多く点在。高速鉄道の発達に伴って、蘇州や杭州などの近郊都市へのアクセスも30分から1時間ほどとなった。これらの上海の便利さや選択肢の多さが、MICE前後のフレ・ポストツアーの満足度の高さにつながっている。

中国は2013年に世界最大の海外旅行市場となり、4年には約1億2千万人の海外旅行者を送出する予測がある他、現在世界3位の観光受け入れ国となっており、今後の観光市場はますます伸びる見込みだ。

CITMの詳細・出展希望は公式HPからアクセス可能。p://www.citm.com.cn



国内で最も長い商店街「和平路金街」

主な内容
開幕式：10月27日(月)午後3時～あいさつ、テープカット、席画披露と交流
講演：「私の初めての中国」10月30日(木)午後4時～6時
大学1年生の女性4名が初めて中国で感じたことについて発表する。日本でも知っていた中国と実際の中国との違いについて語る。
セミナー：「天津観光の可能性」10月31日(金)午前10時30分～午後0時30分
中国を代表する港湾都市である天津観光の魅力、日本の都市との間を結ぶ航空路線などが活発化する中で、日本との交流について天津の旅行会社が力説する。

『天津文化観光ウィーク及び衆芳所在一東方芸術展』
開幕式：10月27日(月)午後3時～あいさつ、テープカット、席画披露と交流
展示：10月27日(月)～31日(金)午前10時30分～午後5時30分
※最終日午後4時まで
講演：「私の初めての中国」(学生4人)10月30日(木)午後4時～6時
セミナー：「天津観光の可能性」(天津の旅行会社)10月31日(金)午前10時30分～午後0時30分
開催地：東京中国文化センター 東京都港区虎ノ門3の5の1 37森ビル1階
主催団体：東京中国文化センター、中国駐日本観光代表処、天津市観光局、天津市美術家協会、南開大学東方芸術学部
後援団体：中華人民共和国駐日本国大使館、新華社日本総局、日本外務省、日本国土交通省観光庁、日本政府観光局(JNTO)、一般社団法人日中友好協会、日中友好議員連盟、社団法人日中協会、一般財団法人日本中国文化交流協会、一般社団法人日本旅行業協会、一般社団法人全国旅行業協会、一般社団法人東京華僑総会、日本華僑華人文芸芸術界联合会(予定含む)

中国国家観光局駐日本代表処、天津市観光局などは10月27日(月)の5日間「天津文化観光ウィーク及び衆芳所在一東方芸術展」を東京、港区の東京中国文化センターで開く。

中国を代表する港湾都市として栄えた天津市の文化遺産、観光素材などをPR。天津南開大学東方芸術部の芸術家も来日する。書画、篆刻の実演、陶磁器の展示も行つ。

天津文化観光ウィーク及び
衆芳所在
東方芸術展